

47 中天游邸跡

西区京町堀2-11(江戸堀中公園)

- ▶ 中天游は大坂蘭学の祖といわれる橋本曇斎の弟子でした。中天游は、シーボルト事件で弾圧された橋本曇斎の身の世話をしました。天游は江戸で死刑囚の解剖で業績を上げ、眼の光学について述べた日本最初の学術書「視学一步」を出版し、物理・数学・天文学でも研究書を残しています。35歳の時、来坂し診察のかたわら蘭学塾「思々斎塾」を開きました。天保2年(1831)緒方洪庵が20歳の時、「思々斎塾」に入塾しています。

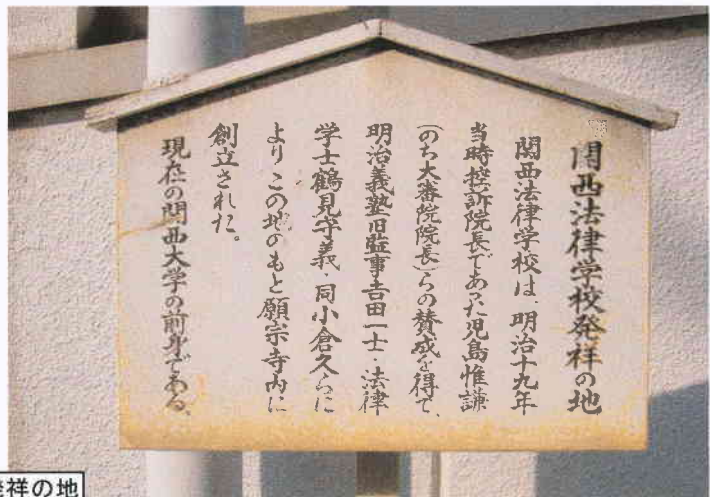


橋本曇斎(1763~1836)
橋本曇斎は「絲漢堂」という蘭学塾を大坂で開いていました。
パナソニック株式会社本社(大阪府門真市)の庭に「先覚者11人の銅像」があり、橋本曇斎はその11人の中に入っています。

48 関西法律学校(のちの関西大学)発祥の地

西区京町堀2-3

- ▶ この地には願宗寺というお寺があり、明治19年(1886)11月4日、関西法律学校がこの寺で開校されました。当時、大阪控訴院長だった児島惟謙らの賛同を得て、明治義塾旧幹事の吉田一士を校主として開校しました。児島惟謙は宇和島藩出身で、明治以後は司法卿 江藤新平のもとで法の大切さを学びます。のちに大審院院長を務め、「大津事件」の時は政府の圧力に屈することなく、司法権の独立を守った事で有名です。【「大津事件」については平成20年(2008)11月30日開催の「大津史跡めぐり」で、現地訪問の際、講師の林 慎吾氏より詳しく説明がありました。】
関西法律学校は、開校当初は夜学で、入退学自由の私塾形式で法律専門の学習を行っていました。そのうち生徒が増えて興正寺(現在の大阪市北区)に移ります。これが現在の関西大学へと発展していきます。関西大学のキャンパス内では児島惟謙の胸像があります。
2006年11月に創立120周年を迎え、現在同大学のホームページから「関西大学の歴史」(17分30秒)のDVD映像を閲覧することができます。(http://www.kansai-u.ac.jp/Kouhou/120/index.html)



関西大学発祥の地



関西大学キャンパス内にある児島惟謙像

49 大村益次郎寓居(倉敷屋)跡

西区江戸堀2-6(江戸堀フコク生命ビル前)

- ▶ 大村益次郎は、文政8年(1825)、周防国吉敷郡鑄銭司村に生まれました。大村益次郎が村田良庵(後に蔵六と改名)と名乗っていた弘化元年(1844)、22歳の時来坂し、緒方洪庵の適塾に入門しました。入門当時は塾内住み込で畳1畳分しか与えられず、日夜勉学に励んでいました。一旦、長崎へ行きシーボルト(この時、シーボルトの娘イネと出会います)に学びますが、嘉永元年(1848)、再び適塾に戻り、塾頭を命じられます。嘉永2年(1849)4月、住居を塾から倉敷屋作右衛門の座敷に移り住み、ここから塾に通いました。しかし、ここに住んでいたのも短い間で、大坂城近くの善庵筋に家を借り、移り住んでいます。借家とはいえ、初めて家を持ったことを記念し、「漏月庵」と自ら名づけました。



大村益次郎 寓居(漏月庵)跡 (大阪市中央区徳井町1-2-2)
次回4月12日の「大阪史蹟探訪Vol.9」でご紹介いたします。



大村益次郎殉難報国之碑にあるレリーフ

50 薩摩藩蔵屋敷(上屋敷)跡

西区土佐堀2丁目3(三井倉庫南東角)

- ▶ 薩摩藩の蔵屋敷は上屋敷・中屋敷・下屋敷・濱屋敷がありました。そのうちの上屋敷は土佐堀2丁目3にあり、土佐堀通り沿いにある三井倉庫のある辺りにありました。南東隅に「薩摩藩蔵屋敷跡」と書いた石碑が建っています。蔵屋敷には藩から派遣された留守居役の武士以外に貨物出入りの事務を担当した「蔵元」、と金融をつかさどる「掛屋」などがありました。鳥羽伏見の戦いが京都で開戦された頃、慶応4年(1868)1月3日夕刻八時半頃大砲を使い、自らの手で(薩摩屋の説あり)蔵屋敷(上屋敷)を全焼させました。神戸海軍操練所の閉鎖とともに勝海舟は軍艦奉行を罷免。江戸にて謹慎となったため、坂本龍馬を含む門下生の多くは、薩摩藩大坂蔵屋敷内にて数ヶ月間、潜伏していました。



司馬遼太郎著の「竜馬がゆく 第6巻」(文春文庫)のP195より

『やがて土佐堀川に入り、二丁目の薩摩屋敷の裏で船を捨てた。薩摩藩邸では、すでに西郷からの指令がきいていて、竜馬の来着を待っていた。「よくまあごぶじでしたな」と、薩摩藩大坂留守居役木場伝内(こばでんない)が言った。』



現在の薩摩藩蔵屋敷(上屋敷跡)

